

第1回岐阜県職業能力開発施設運営改革検討会

議事要旨

1 開催日時及び場所

平成30年7月12日（木）9時56分～11時48分

ソフトピアジャパン 10階 会議室4

2 出席者

竹内治彦座長、荒川晶一委員、川浦且博委員、森幹治委員、亀谷徹委員、大江隆宗委員、藤原広行委員、北山庸夫委員、八黄地宏委員、小田江理子委員

3 事務局

商工労働部次長、労働雇用課長、労働雇用課人材育成企画監、国際たくみアカデミー校長、国際たくみアカデミー管理部長、国際たくみアカデミー担当主幹、木工芸術スクール校長、岐阜労働局職業安定部訓練室長

4 会議の概要

- ・あいさつ
- ・座長選出
- ・資料説明
- ・意見交換

5 主な意見

○入校生の確保に向けたターゲットについて

- ・優秀な高卒の学生は進学又は就職してしまう。それ以外の高卒で職業能力開発校に入校してくる者より、転職者の方が優秀である。
- ・職業能力開発校は経済的に厳しい家庭の学校というイメージがあり、高校や大学が新卒者の進路先として勧めるのは難しい。転職市場での学び直しの場合として打ち出すのはどうか。
- ・国の東海職業能力開発大学校では、女性の訓練生が多くなっている。パンフレット類は、もっと女性にアピールする内容にしてはどうか。第二新卒も含め、やりたいことはあってもどこで技術を身に付けたらいいの

か知らない方は多い。

○魅力の発信について

- ・入校生にとってのメリットとしては、資格が取得できることが大きいので、広報にあたっては取得できる資格を前面に出すべきはないか。
- ・入校生を確保するためにはブランド化が必要である。
- ・進学も就職も保護者が主導するので、保護者に理解してもらうことが重要である。バスツアーなどで学校を見てもらうのはどうか。
- ・国の職業能力開発校は全国一律の訓練でチェーン店のようである。県では、岐阜県の特徴を活かしたコース設定を行い、地域性を出してはどうか。

○カリキュラムの見直しについて

- ・基礎を幅広く勉強することは入社後ではできないので、学校でやってほしい。基礎を一通り勉強していると応用が利く。
- ・1級技能検定まで取得できるカリキュラムを策定してはどうか。在学中だけでは難しいなら、修了後に1級技能検定取得のためのフォローを在職者訓練で連携してはどうか。
- ・木工芸術スクールの訓練期間が1年では短いので、より深く技能を身に着けるために2年コースを設定してはどうか。

○環境整備について

- ・第二新卒を採ろうとするときに、国際たくみアカデミーの寄宿舎の入居要件が20歳未満というのはネックになる。20歳以上も入居を認めてはどうか。
- ・(1人1部屋でないことから)これでは寄宿舎には入らないだろう。今の大学生は、1人1部屋でもバス、トイレが別でないと入居しないほどである。
- ・指導者が大切である。指導者の高齢化が心配であるが、優秀な指導者には定年後も引き続き教えられる環境を作ってほしい